

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600217		
法人名	株式会社 iコーポレーション		
事業所名	グループホーム揖斐川げんき村 木曾の家		
所在地	岐阜県揖斐郡揖斐川町378番地		
自己評価作成日	令和6年10月25日	評価結果市町村受理日	令和7年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2192600217-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橘町1丁目3番地		
訪問調査日	令和6年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①現在、看護師1名を配置。協力医療機関や主治医との連携を密に行い、ご利用者様の体調の変化に応じて早急に対応できるような医療体制を構築している。
- ②主治医からの指示、又はご希望される方は、外部による訪問リハビリを行っている。
- ③施設敷地外の散歩を行い筋力低下を防止、ADL維持に努めている。
- ④季節に合わせて施設内外での行事を実施して、四季を感じて頂いたり、楽しみや生き甲斐を感じる機会を提供させて頂いている。
- ⑤地域貢献の一環として、布遊びの会や近隣企業の会議等で当施設の会議室をご利用頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護予防教室への場所の提供など、地域との関わりがコロナ禍以降も継続されている事業所である。運営推進会議を活用し、身体拘束防止についての取り組みを皆で確認している。職員は何でも管理者に相談できることが出来、管理者も職員の意見を尊重し、自主性を促している。風通しの良い職場である。職員は利用者の生活歴や性格を把握し、普段の変化もよく観察して接している。それぞれの楽しみを尊重し、特に外出支援に力を入れている。毎日散歩や室内での機能訓練を実施することで、身体機能を維持できている利用者が多い。利用者は外出する楽しみのため、より一層機能訓練を頑張り、生きがいのになっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域資源である介護予防拠点しづやまを利用されている地域の方と利用者・職員との交流を図り、地域と繋がれるよう努めている。	理念にある「自立支援」「尊厳」について、統括部長と管理者が職員会議で説明し、話しあっている。新人職員には個別に、理念の実践について指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	介護予防拠点しづやまを地域の活動に利用していただけるよう開放し、地域自治体と連携、地域の森林整備等の計画を進めている。	介護予防教室として事業所のスペースを開放し、参加者と利用者、職員が交流している。地域の企業と相談し、敷地内の除雪作業を受け入れてもらっている。近所を散歩し、近隣の方から話しかけてもらう関係性がある。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて、過去の運営状況と職員状況等を報告しています。事故検証等の具体例も報告し、施設内コロナ感染時対応のシュミレーションも報告しています。	運営推進会議で身体拘束防止委員会を開催し、内容を検討、評価してもらっている。感染対策や、他施設の取り組みのアドバイスをもらい、職員会議で報告している。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型コロナ関連については、密に報告・相談を行っています。地域ケア会議に参加し、他事業所・多職種・関係各所との情報交換も行っています。	町主催の地域ケア会議、町施設職員連絡会に参加し、意見交換や交流をしている。防災計画についても町に相談し、町からも身寄りのない方の入居相談を受けるなど、お互いに協力関係が出来ている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に委員会を開催し、知識の再確認と自己啓発を促している。職員が過度な対応をすることの無いよう、複数人での相談の場を設けている。	専門家を外部講師として招き、身体拘束防止、不適切ケアの防止の研修会を開催している。言葉遣いについても職員同士で確認し、リーダーを中心として話し合いを行っている。運営推進会議で、身体拘束防止委員会を開催している。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を開催し、知識の再確認と自己啓発等を話し合いをしている。利用者の安心できる施設になるよう、接遇改善を目指しています。	何が虐待に繋がる行為かを研修会で周知し、不適切ケアに繋がらないかを職員同士で確認している。特に言葉遣いについて、職員会議で管理者や統括部長が注意を促している。	

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員に働きかけ、個々のスキルアップの為、実習を行い、学びの場を設けている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時・契約解除時のヒアリングを重要視しています。利用者の家族・本人にとって満足・納得して利用していただける施設となれるよう、日々努めています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個別の面会時や問い合わせ時に要望や意見・思いを傾聴し、行っている。	家族には毎月様子を伝える手紙を送付したり、面会時に直接様子を確認してもらったりして事業所の様子を積極的に伝えている。個別に把握した要望等は、管理者やケアマネにすぐに共有している。介護相談員の訪問も受け入れしている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議・各ホームでの会議を行い、代表者・管理者が現場に赴く機会を多く持ち意思・意見を述べやすい環境作りに努めている。	管理者と職員が一緒に業務を行い、話しやすい環境がある。車いすなどの備品の購入希望も随時対応している。毎月の余暇活動の活動内容や費用も職員に任されていたり、タブレットの導入をしたりし、活動内容の充実やケアに専念する時間を増やすことが出来ている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	就業規則に則った勤務体系に縛られず、職員個々の事情に配慮した勤務となるよう配慮している。	調理職員等介護補助の職員を採用し、業務改善を行っている。職員の個性に応じて配属の見直しを行った。希望休暇、有給休暇も、管理者や統括部長が職員に促し、取得しやすい環境である。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得・スキルアップの支援・研修参加の支援を行い、積極的に取り組み努めている。	管理者と話しあい、職員が希望する外部研修等に参加できるようにしている。資格取得に関わる費用助成なども行っている。オンデマンド配信の研修も積極的に取り入れ、職員が出来るだけ参加しやすい研修参加を促している。	

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響で、他社様との交流は控えていますが、状況を考慮し再開したいと考えています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員側思考介護にならないよう、利用者様の思考に寄り添い、関係を築けるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の生活歴や日々の生活の中での何気ない会話や表情、動作等から暮らし方の希望、意向を探り、職員同士で検討共有し、ケアへ反映していけるよう努めています。	居室で一人になった時や、日々の会話の中から利用者の思いや意向を聞き出している。発言しにくい方は、選択肢を用意して選んでもらうなどの工夫をしている。面会時などに家族から生活歴、性格を聞き、思いを代弁してもらっている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を設け、会議・サービス担当者会議でケアマネージャー、介護職員が家族様、本人様の思いや意見を取り入れ、その人らしい介護計画書の作成に努めています。	面会や電話等で家族の意向を確認している。毎月モニタリングを実施し、職員会議でケアマネ、介護職員等ケア内容について意見交換を行っている。往診時に主治医に意見を確認している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践状況、気づきや工夫を記入し、利用者個々にケース記録を作成しています。申し送りノート、業務日誌を活用し、職員同士の情報共有を行っています。	タブレットで情報を把握し、申し送りノートでも再度確認を行っている。ケアプランに基づいた記録はケース記録に書き、状態の変化を職員間で共有している。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズや生活歴を考慮し、馴染みの活動の提供(戸内での裁縫や洗濯・料理などの家事)(戸外での剪定・畑・花壇・草取り)を積極的に提供しています。	家族で対応できない場合に通院の支援や、日用品の買い物などを代行することもある。家族の依頼で馴染みの美容院まで送迎し、喜ばれた。福祉用具の知識が豊富な職員が、適切な用具の活用を提案することもある。	

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護予防拠点しずやまを開放しています。施設利用者は、三密を回避し利用している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様のかかりつけ医の往診を実施し、家族様の希望に沿って対応しています。	家族が通院支援をされる場合は、看護師から普段の様子をメモにして渡している。訪問診療や、訪問マッサージを受けることも出来る。訪問歯科診療を受けることも出来る。眼科等の通院も、家族で対応できない方は通院支援を事業所で対応している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院する際は介護サマリーを作成しています。病院関係者へ、利用者の情報提供を行い医療機関と連携を図っています。	病院の相談員や家族から入院中の様子を確認し、退院カンファレンスに参加している。事業所でできる治療、出来ない治療を家族に説明したり、主治医を交えてグループホームでの生活が可能かを相談したりし、退院後の生活を検討している。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様に働きかけ、本人様と家族様で話が出来よう努めています。本人様や家族様にとって具体的に捉えられるよう努めている。	食事が低下した際など、主治医から家族に終末期についての説明を行っている。普段からも、家族に終末期に対する意向を確認している。看取り介護について、職員の不安にどうこたえていくか、管理者は今後の方針を考えている。	看取り介護について研修等を行ったり、事業所内で多職種で話し合ったりし、終末期に向けた知識を深められることを期待したい。
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成しています(各ユニットに配布)。緊急救急対応等の勉強会を看護師・ケアマネを中心に施設内にて開催し急変時の対応に備えています。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を設置し、施設全体で避難訓練や消火器の取り扱いの勉強会を行っています。災害時、地域より協力が得られるよう、自治会の協力をお願いしています。	定期的に火災避難訓練、災害訓練が実施されている。土砂災害警戒区域に指定されており、自治会を通して森林管理を町に依頼している。運営推進会議で、災害時の協力依頼を行っている。備蓄品も多めに用意し、定期的に点検している。	

グループホーム揖斐川げんき村

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議やホーム会議等で、利用者様の尊厳を大切にすることを話し合い職員同士で徹底している。	居室の入り口は戸を開けた際に中が見えないようにのれんをかけ、プライバシーに配慮している。利用者ごとに気にされている話題や言葉を慎むように、職員間で情報共有している。言葉遣いは馴れ馴れしくなりすぎないように気をつけている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様に選択する機会を設け、日常生活を送れるように努めています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のリズムを尊重できるよう、共同生活のルールを遵守し、職員同士が連携を行い、業務に努めています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態の可能な範囲で、普通食に近づけていけるよう努めるとともに、家事参加等の提供を行い、支援しています。	野菜の皮むき、盛り付け、洗い物、片付けなど利用者が料理に参加している。ウナギ、おはぎ等行事に合わせた料理やおやつ作りを行い、季節感を味わっている。外食等は家族と一緒に出掛ける方もいる。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った栄養摂取や水分確保を実施し、嚥下状態や味の好み、摂取癖等の把握に努めています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に口腔診療、希望者や必要な方には受診を実施。毎食後、本人様の身体状況に合った方法で口腔ケアを実施しています。	毎食後、口腔ケアを行っている。毎月歯科医の訪問診療や歯科衛生士の口腔ケア指導を受け、職員もその都度口腔ケアについて相談している。	

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の記録を記入し、排泄パターン・排泄状態の把握に努めています。情報の共有も行い、適宜自立に近い排泄ケアが出来るよう努めています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	気持ちよく入浴して頂けるため、時間に余裕を持ち、本人様の要望に応え、入浴を実施しています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間時、安眠して頂けるよう、日中に適度な運動を実施しています。夜間の睡眠状況について職員間で話し合いを行い、共有している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報用紙に目を通し理解に努めている。看護師や先輩職員は後輩職員に対し適宜助言や指導を行い、服薬管理は複数の職員・看護師で実施しています。	内服に変更がある際は、訪問薬剤師から都度効果や副作用について説明を受けている。申し送りでも注意点を職員間で共有している。飲み方などの手順をルール化し、誤薬防止に努めている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	初期対応や日々の生活から把握されていく本人像を尊重し、出来る事・やりたい事に取り組める機会を積極的に提供し、家事参加や庭木の手入れ・畑・裁縫など日々の生活の中でのやりがいの提供にも努めています。	犬と一緒に過ごす方、塗り絵や編み物を楽しむ方、畑仕事や庭の剪定をする方、食器洗いが日課の方など、それぞれの趣味や生活歴を職員は把握し、役割を持って生活できるように取り組んでいる。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内外を散歩したり、家族様の理解・協力を得て、外出や外泊を実施しています。	ほぼ毎日、事業所の近所を散歩している。桜や祭りなど季節の花見や行事にも参加している。家族と一緒に外食や外出を楽しむ方もいる。外出するために体力をつけようと、利用者は毎日のリハビリに取り組み、外出することで達成感を得ている。	

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関して、当施設では持っていていません。必要な時に必要な物を購入して対応しています。高価な物品は家族様に相談して購入しています。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望があった際、相手方の了解を得て電話での通話を提供しています。手紙の交換についても投函は職員が代行していますが、自由に行っていただいています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間では、他者様同士のトラブルに気を配り見守りを実施中。また職員が間に入り、居心地の良い空間作りに努めています。四季に合った、絵や作品を、利用者様と一緒に作成し、飾っています。トイレの看板を大きくし、設置する等工夫をしています。	散歩で拾ってきたどんぐり、まつぼっくりなどで人形を作り、廊下やリビングに展示している。外出時の写真が掲示され、会話のきっかけになっている。昼食後はソファでゆっくり過ごせるように、懐かしい音楽などを流している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	過度に交流を推し進めず、自発的な交流を促し、自ら居場所を作って頂く様に仕向けています。難しい場合は、職員が入り心地よい空間を作り込む様に対応しています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分らしさを表現できる物品を模索し、利用者様の個性を活かし、「自分の家」として考えて頂けるよう、職員は出来る範囲で対応しています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様一人ひとりが出来る事・理解度は違います。それを把握し、理解をし、利用者様一人ひとりが自立した生活が送れるように、その人に合った支援に努めています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600217		
法人名	株式会社 iコーポレーション		
事業所名	グループホーム揖斐川げんき村 長良の家		
所在地	岐阜県揖斐郡揖斐川町378番地		
自己評価作成日	令和6年10月25日	評価結果市町村受理日	令和7年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2192600217-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橘町1丁目3番地		
訪問調査日	令和6年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとしての施設理念の理解・共有を行い、支援を行っています。ケアプランを作成する上で、本人様の思いや施設理念に沿ったプランになっているか精査し、それに伴ってスタッフがご本人様の意思を尊重し実践している。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散策時など地域の方から挨拶される事も多くみられ、地域との繋がりを実感します。またしずやまを使用し地域の方が水彩画などを楽しまれたりなど事業所が地域の交流場になっていると感じています。			
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染予防の為、地域貢献としての発信は積極的には行っていません。今後スタッフが認知症への理解をさらに深め、オレンジリングの講習等発信していき、地域の認知症理解への貢献を考えています。			
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて電話等で情報を相互に情報交換できる関係を作っています。			
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置。各棟から委員配属し毎月定期に開催している。身体拘束に関する知識を学んでいる。また、利用者に対して、無意識に行動を制限していないか、リスク対策に正当性があるか等を委員会で検討している。			
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設置し、定期的に勉強会を行い知識の向上に努めています。全体の職員会議でもスピーチロック等の知識を共有出来る機会を設けています。今季は外部講師を招きスタッフの虐待に対しての認識の再度見直しを行いました。			

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象となる入居者様には、制度に基づき本人、ご家族様または、関係者様と詳細を打ち合わせ取り組んでいます。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書及び重要事項説明書に基づき説明し、本人・家族様の同意を得て締結しております。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のお便りでの現状報告や、また、ご家族様の声が届くように棟玄関口に意見箱を設置し意見が取り入れやすいよう対応しています。面会時や電話連絡時には本人・家族意向を確認、共有できる環境です。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主に代表者、管理者が出席している会議の場で疑問点や、改善点等の意見を聞ける機会を設けています。その他でもスタッフの集まる場所へ積極的に参加し、意見を聞いて改善、反映を心がけています。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	スタッフの有給取得を行い、各個人のワークライフバランスの安定を図っています。さらに評価・自己分析・啓発など利用者、本人、施設に有益となる視点で検討し、職員の向上心につなげていきたいです。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外問わず研修に参加し、職員個人のスキルアップにつなげています。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染予防の為、施設での積極的な交流は行っていません。オンライン上での勉強会などは施設として積極的に参加を推奨しています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様同士がコミュニケーションが取れるようレクリエーションや会話ができるような環境作りを心がけサポートしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の日常生活の中で持たれている思いや不安など、会話を傾聴したり動作を観察し、利用者様の寄り添い対応できるようにチームで共有し解決する様務めています。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ホーム会議で担当者を中心に会議を行い、ケアマネ・看護師・介護職員の多職種で検討し介護計画を作成してます。必要に応じ医師や家族との連携を図っています。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	PC入力し経過の共有を行っています。必要に応じて写真に残し可視化しています。職員同士情報共有のため新規の変更に対しては適宜張り紙や送りノートを作っています。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の意向を考慮し、こういった選択肢があるのかを共に考えていき本人様にとって最適なものを常に提供できるよう努めています。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の神社参拝やお祭りへの参加で、地域資源を活用しながら、地元の方とふれあう機会が増えつつある。市町村からの情報を得ながら、今後も協働出来る場を増やしていきたい。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による訪問診療(医科、歯科)は定期的に行っている。また急変時なども電話やバイタルリンクにて指示を頂き対応をしています。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時などの際、ケア記録をもとに介護サマリーを作成し、医療機関担当者と協議、情報交換を行い連携しています。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の状態の変化を早期発見対応できるように心掛け、医師、看護師、ケアマネジャー等と共有しています。また、こまめに家族に利用者様の状況報告をおこない、今後に対しての思いを傾聴し終末期に向けて行っていける援助について検討しながら行っています。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者各部屋に緊急時の対応マニュアルを設置し緊急時でもスムーズな対応が行えるように心がけています。また、緊急時対応や感染対応の初動訓練等、利用者の急変や事故発生時に備えてホームで研修を行い対応できるよう努めています。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行い緊急時速やかに避難できるよう訓練を行っています。また事務所に避難マニュアルを張りいざと言う時に実践できるように心がけています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	集団生活の場の為どうしても個々のプライバシーを保つのが難しいですが、利用者様を尊重する声掛けや、活動を心がけています。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様へ、個人の意思決定を促す様な、お声掛けを心掛けています。また洗濯たたみ等やれる事を見つけ出し提供してご本人様の生活のやりがいを見つけられるよう心がけています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の為、今までの生活と違う場面もあり入所時は抵抗を感じられることもありますが、今までの生活になるべく近づけられる様妥協点を見つけ出し利用者様の生活のしやすいリズムを作るように心がけています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の物を取り入れた食事を一緒に作ったり食べに行ったりしています。また仕込み片づけ等お手伝い頂ける利用者様には積極的に参加できる環境にしています。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期で行われる体重測定、日々の食事量、水分量など変化がみられる利用者に対し医師、看護師に適宜報告を行い相談指示を頂き対応しています。また市販の物を使用しできるだけ口から栄養を摂取できるよう工夫をしています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後実施しています。また義歯の漂白洗浄を夕食後に実施している。歯科医師、看護師に口腔内の状態を定期的に報告を行い、口腔ケアの指導をして頂き実施しています。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的にトイレ誘導、適切なオムツ等の選定を行い排泄コントロールに努めています。排泄チェック用紙を使用し状態の確認を行っています。また、医師、看護師と連携を行い、排便のコントロールを行いご本人様の不快がない様にしています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者様のニーズを会話等から調査し、個々でゆっくりと入浴して頂ける環境を作る事を心掛けています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調管理は24時間実施し、居室等で快適に過ごされるよう施行しています。状況に応じて、ベッドで安心して休息して頂いています。居室に閉じこもりを避けたり、昼夜逆転現象等にならない様日中散歩等アクティビティーの声掛けしている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で薬剤情報を共有し、理解・服用をしています。棚、BOXによる服薬管理も実施しており、変化がある場合等は医師・看護師に報告を行い、指示のもと支援を行っています。また事故委員会にて服薬についての研修を今年度行う予定です。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人ひとりの性格・力を把握し、家事手伝いやレクリエーションに取り入れています。利用者様の出来ること出来そうな事等の見分けも大切に有り常に意識しています。年に数回ですが水族館等の外出を行い楽しみや気分転換の支援をしています。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車等の外出は困難なこともありますが、敷地内の戸外活動は積極的に行っております。家族様との面会等コロナなどの感染症で難しいこともありますが、できる限りの協力を行っている。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は施設が行っています。入居者様の希望等があれば、必要に応じ検討・購入をしています。大きな買い物はご家族様に電話にて都度確認し、極力、利用者様の意向に沿うようにしています。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月に1度スタッフからの家族へ報告をする際以前出されていた方には声をかけ便箋をお渡しし一緒に郵送しています。電話もご家族様の支障にならないよう声掛けをしながら行っています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダーやレクリエーションの作品などを行い、季節ごとの作品を作ったり飾りつけを行っています。扇風機や冷風機を設置し、個々の利用者の熱中症予防にも対応し心地よい空間作りに努めています。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席のほかにソファや、ベランダにベンチを置き日光浴を行ったり、他利用者や、スタッフとのコミュニケーションがとれる場を提供しています。過度な交流を促さず、自発的な交流ができるよう陰ながら促していくよう心がけています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の思い出の物や、家族様の写真などを飾り、その人らしい居室作りに取り組んでいます。家族にもお聞きし、なじみの物などをホームで使って頂ける様にしています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方のADLを理解し、トイレや自室移動名札を付けたり、イラストを張ったりとご本人様が自分で分かるように心がけています。動線上に段差が無いよう整備したり、センサーライトを設置し入居者様の自分一人での行動ができる限り歩行の安全にも配慮しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600217		
法人名	株式会社コーポレーション		
事業所名	グループホーム揖斐川げんき村 揖斐の家		
所在地	岐阜県揖斐郡揖斐川町378番地		
自己評価作成日	令和6年10月25日	評価結果市町村受理日	令和7年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2192600217-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橘町1丁目3番地		
訪問調査日	令和6年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方との交流を図り、ご利用者と関われる機会を設けている。利用者・職員が地域と繋がれる環境を活かすよう努力しています。地域資源を活用しながら、住み慣れた地域の特性を活かし、施設での生活をおくれるよう努めている。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	しづやま事務所を地域の活動に利用しやすいよう開放しています。また地域自治体と連携し、地域の森林整備を行い、周辺住民との関わりを増やしています。地域からのフィードバックを受け取り、今後の取り組みに活かしていく。			
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者や家族様からのフィードバックを収集し、サービスの改善点を検討している。その意見をもとに、会議で議論することで、よりニーズに即したサービス提供が出来るよう努めています。また、施設での取り組み等を紹介することで、地域に情報共有を行っている。			
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議に参加し、地域や他施設の課題を共有しながら問題解決に取り組んでいます。身寄りのない方の受け入れについて、難しい問題があるが、今後も増加していく事が懸念されるため、地域の課題に積極的に取り組んでいきます。			
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束委員会を開催し、現状のサービス提供が身体拘束に該当しないか確認している。虐待とリンクする部分が多い為、不適切なケアから身体拘束に発展しない様注視し、防止と啓蒙活動を行っています。コロナ禍での認知症利用者を隔離することの難しさが課題としてある。			
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に委員会を開催し、知識の再確認と自己啓発のため話し合いの場が必要。安全ばかりを考え視野が狭くならない様にする。利用者の安心安楽な施設になるよう、更なる接遇改善を目指していく。			

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の権利については、本人の意思決定を尊重し、公的制度などの情報を共有している。自立支援事業の在り方については、毎月のホーム会議やケアプラン変更時に、確認している。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はご家族や本人様にとって納得して利用していただける様、心配事や不安の払拭に努めています。契約締結時・契約解除時のヒアリングを重要視し行っている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びにに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会で利用者・家族様に出席していただいて意見・要望を伝える機会を設けています。また、面会や問い合わせ時に意見を伺いサービス提供に反映させている。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や各ホーム会議に代表者・管理者が出席し職員の意見を聞く機会を設けています。各ホームもしくは個別で提案等あれば都度意見を聞く環境はあります。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	勤務状況等を把握し昇給に反映している。個々の資質向上に努める姿勢を評価し、各リーダーからヒヤリング等行い向上心を高めて頂けるよう、施設として対応している。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は、主に各委員会が提案した研修・講義を中心に外部研修を含めて実施している。職員教育に必要な知識習得が出来るよう、年度計画時には考慮しています。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や施設長連絡会等に参加し、関係者と共に地域活性化に取り組んでいます。単体施設では取り組みに限界があるため、他施設と協力しながら取り組んでいます。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の思いを傾聴し本人様を中心としたサービス提供ができるよう努めています。また、意思疎通が困難な方には、家族様から生活歴等を聞き取り、本人様の嗜好に配慮したケアをし寄り添う介護に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現在のADLや思いを考慮し、本人の人生に寄り添った支援に近づけるよう話すことから努めている。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングし本人様の状態を評価しつつ、課題があればホーム会議で多職種で検討しています。介助側の都合にならないよう、本人様の思いを主として介護計画に反映している。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録に残すとともに、必要に応じて利用者の表情・言葉・心情などの職員による主観的な記録も残している。それらに基づき、職員間での話し合いの場をつくり議論と結論、実践と見直しの繰り返しとなるよう努めている。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用規約・契約内容はあるが、ニーズがあれば答える事の出来るよう、臨機応変に職員・多職種・他施設関係者・家族と連携連絡を取り柔軟な対応をしている。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域文化や人・環境等の地域資源を把握しながら、施設・ご利用者・地域住民との関係性を構築できるよう努めております。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	慣れ親しんだかかりつけ医での往診を励行し、施設かかりつけ医以外でも往診対応の受け入れを行っている。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には出来るだけ早期に・情報伝達が行なわれるよう資料の作成・共有・送付をしている。状態の変化にも対応していきたい。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約締結時に時点での本人・家族の意向を確認するとともに、本人の状態の変化に応じて都度、本人・家族・他施設を含めた関係者と随時連携をとって取り組んでいる。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成と周知徹底をするとともに、急変時に施設内での円滑な連携が行なわれるよう連絡体制の確認を定期的に行い身につける。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に夜間想定や人員希薄な状況を想定した訓練を実施している。緊急時の地域協力も相互に行えるよう自治会を通して依頼している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室などに簾を使用し、入居者それぞれの個人のプライベートを大切にしている。入居者様の状態に応じて、ルールの中で共同生活を楽しんでいただいている。人格尊重した言葉かけを意識する様に日ごろから心がけている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の何気ない会話を大事にして、徐々にコミュニケーションを構築して、本人が得意な事等で自己決定や選択の判断がしやすい環境を作るため多く会話の機会を作るようにしています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の中でも、本人様の訴えや家族様の助言をもとに意見を尊重して要望を聞き入れ提案していこうと考えながら支援していきたい。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な下ごしらえなどのお手伝いなどで、自分もこの料理に参加したという気持ち。食後、入居者様のご厚意で、食器拭きやお膳拭きを手伝っています。職員と入居者様が協力した生活でそれぞれの役割を形成している。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎食記録するとともに、毎月体重測定を実施している。入居者の特変あれば、インアウトチェックも行い、改善に努めている。敷地内散歩などの後の水分補給も行っている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が口腔ケア介助・声かけを行っている。また定期的に訪問歯科診療を取り入れ、口腔ケア方法の指導を受け、各入居者の口腔現状を管理されている。義歯使用の方の夜間の消毒なども行う。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人様のADLや排泄状況に関して、職員同士で話し合い、適切な排泄パターンを見出している。また、QOLの向上に向け、排泄の失敗を減らせるよう考え支援をしている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者様のその日の気持ちや健康状態、外出の希望などを考慮して入浴の順番を変更したりし日を変えるなど、本人様の気持ちを尊重して個人浴も取り入れています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠の入居者は、出来るだけ眠剤を処方せず、日中の活動量を増やすことや本人様の不安な気持ちをくみ取れるような話し合いの場を持ち、夜間の睡眠時間を確保できるようにしたい。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の使用や変更点があった場合、看護師と連携して薬剤調整をしている。介護職員も服薬管理の大切さを認識し、変更があればチーム内で共通認識として徹底している。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	敷地内、及び近所の散歩に時間を掛ける様に心がけている。又、女性陣は、食後の食器拭き、おぼん拭き、簡単な料理の下ごしらえ等、男性陣は模様替え等のお手伝いもして頂いている。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ5類移行に伴い外出頻度は増えております。家族様との外出機会や各ホームでの外出レクリエーションを企画し、普段はいけない地域への支援も行っている。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当施設ではお金を持って頂いていません。必要なものか否かを職員同士で話し合い購入している。基本的には本人様と相談して、高価な物は家族様に連絡報告し希望を伝える。家族様の判断にて購入して頂く場合もある。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様からの郵便代行や電話のご要望には応える様にしている。又、毎月家族様へ向けたコメント文を通信し、ご本人様の様子や過ごし方などを出来るだけ詳しくお知らせしている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は比較的に地味な色合いで落ち着いた雰囲気を演出している。廊下にはイベント時の作品や写真を掲載し、季節感を意識した雰囲気作りを心がける。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの席、食事席に関して、気の合う入居者、話が好きな入居者が隣になるなど、席の配置を考えている。また、入居者の特徴を考え、考慮した配置となっている。ソファ席も用意している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室内配置に関しては、本人様が落ち着く様な嗜好を考え配置・危険性のないよう配置を考える。また、家族様とも話し合いを通じ、危険が生じないような配置随時適応している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室がわからない利用者様に対しては、大きくフラッグ状に名前を記入し表札代わりにする。自身で行動が決められるようにするなどの工夫をしている。		